

*** 今日の健康 (12月) ***

< 麻疹の状況 >

麻疹の予防接種率の低下など本稿で何度か紹介してきましたが、2023年11月に麻疹の復活が世界各国で懸念すべき水準となっていると、世界保健機関 (WHO) と米疾病対策センター (CDC) が発表しました。

感染者の急増の背景にはワクチン接種率の低下があります。11月に発表された CDC と WHO の報告書によると、2022年の世界の麻疹感染者は2021年から18%増え、死者も43%増加。感染者は900万人、死者は13万6000人だったと推定されています。死者の圧倒的多数は小児です。2022年、麻疹の大規模な集団発生 (人口100万人当たりの感染者が20人以上) が起きた国は37カ国で、前年の22カ国から増加しています。2023年4月28日時点でインドやインドネシアでは麻疹のアウトブレイクが発生していました。

この一方で日本では麻疹の報告数は減少傾向です。報告数は2016年165例、17年186例、18年279例、19年744例と流行していましたが、21年6例、22年6例、今年23年は1-46週で25例の報告で、昨年よりは増加しているものの、21年から減少傾向です。昨今、新型コロナウイルス感染症により制限されてきた国際的な人の往来が増加しており、麻しんの症状がある国内外からの観光客が、公共交通機関等を利用することで国内での広域的な麻疹の患者発生への影響も懸念されます。



麻疹ウイルスは極めて感染力が強く、せきやくしゃみで簡単に広がり、感染者がその場を離れた後も空気中に2時間ほどウイルスが残り空気感染することがあります。麻疹に感染すると、咳や高熱、鼻水といった風邪に似た症状と、数日後に発疹が現れ、ウイルスにさらされてから1~2週間後に発症します。発疹が現れる5日前から、発疹が消えて5日後までの期間に渡り人に感染させる可能性があります。

重症化すると死に至ることもあります。重度の呼吸障害や失明、脳症など重い合併症を引き起こす可能性があり、乳幼児や妊婦は重症化するリスクが特に高いです。特別な治療法はなく、症状を和らげ、合併症を予防するために、脱水予防と解熱などの対処療法が治療の基本となります。

麻疹は安全で効果の高いワクチンを2回接種することで予防が可能で、麻疹の発生を抑制するにはワクチン接種率を95%まで高める必要があります (武蔵野市は95%に達していません)。しかしながら日本では予防接種を1回しか受けていない世代があり憂慮されています。

麻疹の予防接種は2回接種が推奨されており、1回の接種で免疫が獲得できるのは約5%の人で、免疫ができて1回接種の場合は年齢を重ねるうちに免疫が低下してしまいます。

現在、日本では麻疹風疹混合ワクチン (MR ワクチン) の形で、1歳代と小学校入学の前年に合計2回接種します。ところが、この2回打ちが始まったのは2006年で、子どもの頃に麻疹にかかった50歳以上の世代と、2回のワクチン接種を受けている若年世代を除く若年・中年世代は予防接種を1回しか受けていないため、免疫のない人が多いのでワクチン接種を推奨します。